■日本女性会議２０１１松江概要

開催日程	平成２３年１０月１４日（金）～１５日（土）
開 催 地	島根県松江市
テ ー マ	語ろう・紡ごう、“だんだん”の縁（えにし）を世界へ
参 加 者	伊藤眞理子さん（江別市男女共同参画推進連絡協議会副会長、 江別消費者協会副会長） 高木　玲子さん（江別市男女共同参画推進連絡協議会事務局長）

１日目	分 科 会	【分科会２】　※高木玲子さんが参加 ○テーマ：時代を超えて出会い・ふれあい 「超高齢社会を切り拓く」 高齢社会の未来を島根にみる ○内　容：基調講演／パネルディスカッション ・講師・コーディネーター 春日キスヨ氏（松山大学人文学部教授） ・パネリスト 石橋　典子氏（痴呆を生きる私たちの会代表、 白枝内科クリニック副院長　認知症担当） 福田　純二氏（NPO 法人島根出会い・無縁サポート代表） 渡邊　利恵氏（島根県健康福祉部高齢者福祉課 在宅サービスグループ　グループリーダー） 寺本　恵子氏（島根県地域興しマイスター、 地元農産物直販店舗「香木の森・香楽市」代表） ○会　場：くにびきメッセ　小ホール ○定　員：３００名
		【分科会３】　※伊藤眞理子さんが参加 ○テーマ：体感！小さくたって社会の大切な仲間 「子どもの人権」 子どもの社会参画は、子どもとおとな、共に尊重し合いシアワセに生きる社会から ○内　容：ワークショップ／講義 ・講師 北島　尚志氏（NPO 法人あそび環境 Museum アフタフ・バーバン代表、 大妻女子大学非常勤講師） ○会　場：くにびきメッセ　４０１会議室 ○定　員：５０名

日本女性会議2011松江

2日目	基調報告 （全体会）	○テーマ：「男女共同参画社会の実現をめざして」　※２人が参加 ・報告者 岡島　敦子氏（内閣府男女共同参画局長） ○会　場：くにびきメッセ　大展示場
	記念講演 （全体会）	○テーマ：「エプロンはずして夢の山」　※２人が参加 ・講師 田部井淳子氏（登山家） ○会　場：くにびきメッセ　大展示場
	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ （全体会）	○テーマ：松江から発信！ジェンダー平等をめざして　※２人が参加 ～第３次男女共同参画基本計画を暮らしに活かす～ ・コーディネーター 山下　泰子氏（文京学院大学名誉教授、 国際女性の地位協会会長） ・パネリスト 橋本ヒロ子氏（十文字学園女子大学教授・副学長、 国連女性の地位委員会日本代表） 岩田喜美枝氏（株式会社資生堂代表取締役副社長、 男女共同参画会議議員） 福間　正久氏（言行ふいっち族、 元島根県男女共同参画審議会委員） ○会　場：くにびきメッセ　大展示場

■日本女性会議２０１１松江参加報告概要

「日本女性会議２０１１松江」に江別市から２名が参加しました。

「日本女性会議２０１１松江」
～語ろう・紡ごう“だんだん”の縁を世界へ～
江別市男女共同参画推進連絡協議会副会長
江別消費者協会副会長　　伊藤眞理子さん

○分科会では第３分科会「子どもの人権」に参加

ワークショップを通し、〔体感・小さくたって社会の大切な仲間〕を体験させてもらった。

表現遊びにおける様々なかかわりは、恥ずかしさ、不安、緊張、戸惑い、遠慮、対立、葛藤など次から次と湧き出る感情と向き合い､遊びの持つ魅力や面白さの力によりそこから逃げず、その気になり互いに安心でき、かかわりを模索していくことにある。

安心して思っていることを言い合える心地よさの実感、伝えたい事を伝えたい人に伝えるためにする工夫、違ってもいい、それが面白いという発見、分からない・見えないものに向かっていく想像力の発揮、こういった積み重ねが、かかわることを閉ざさない、あきらめない力になっていくのだと思う。

かかわりの中で気づく一人ひとりの違いを認め、どのように折り合いを付けていくか。その調整していく力こそ権利意識が磨かれていくことにつながるのだと思います。

「子どもの人権」と一口にまとめることは難しく、今の社会、年齢的に何処までを子どもと言うのか、人権も積み重ねであって年齢によって変っていくのではないか、と考えさせられました。

○シンポジウム「松江から発信！ジェンダー平等をめざして」では

コーディネーターの国際女性法学専門である**山下泰子さん（国際女性の地位協会会長）**から、世界中の国々で男女共同参画社会の実現に向けた取り組みの歴史が語られ、日本でも①女子差別撤廃条例の批准、また②「男女共同参画社会基本法」の成立、③「男女共同参画基本計画」の策定、④「男女共同参画会議」の設置と着実に取り組みが進められてきましたが、現状はまだ道半ばの状況にあり、多くの課題が指摘されています。私達の生活でも未だ性別役割分担意識が強く残り、女性の就業継続と男性の家事育児への参加など充分に進んで来なかった現実があります。私達は家庭や職場・学校や地域など身近なところから男女共同参画の取り組みをどのように進めていけばよいのでしょうかと提起があり、これを受けて、3 人のパネリストが次のようなお話をされました。

橋本ヒロ子さん（国連女性の地位委員会日本代表）からは、「世界から見た日本女性の地位」について、

①女性の政治参加が進まない
②女性の経済力が低い
③社会的にジェンダー意識が強く男女役割が固定化している
④女性の不十分な社会参画、さらに政府が積極的改善措置などの取り組みをほとんどしない
⑤社会を変える努力が少ない

など、国際的な指標で日本の順位が大変低い主な理由を話されました。

岩田喜美枝さん（男女共同参画会議議員）からは労働分野を中心に、「日本の管理職女性の比率は 1 割」「出産、育児のため仕事を中断し、6 割が退職」「再就業は非正規雇用」と現在抱えている諸問題を話されました。

福間正久さん（元島根県男女共同参画審議会委員）からは男性の男女共同参画推進の取り組みについて、

・今こそ語ろう男の本音
・言行不一致族「いろいろな意見があっていいのだと」
・おじいちゃんの台所「三世代が心を一つにして作る料理」
・リタイヤ男性は宝の山「それぞれの分野で現役時代に培ってきた豊富な経験と特技を利用」
・育爺の子育て「育メンに対抗して育ジィを」

などを挙げ、リタイヤ後の生活として、

①粗大ごみ、濡れ落ち葉にならないよう家庭内での自立
②時間を忘れて一人遊びできる趣味を見つける
③無縁だった地域に貢献する事と新たな仲間作り

が大事であると話されました。

松江大会に参加して
江別市男女共同参画推進連絡協議会事務局長　高木玲子さん

○第 2 分科会「超高齢社会を切り拓く」（高齢社会の未来を島根にみる）

コーディネーターによる基調講演の後、高齢化先進県である島根で新しい地平を開いてきた 4 人のパネリストたちの熱い思いが語られましたが、特にコーディネーターの**春日キスヨさん（松山大学人文学部教授）**による講演は驚きでした。

はじめに、介護をめぐる家族関係の現状と背景が語られました。新聞報道の中で語られている家族関係は特別な例なのか。根底的な家族変化が生じているとみるべき。そのなかでどんな社会を、家族関係を構想するのか。

近所に住んでいるのに、親の顔も見ず、インターホン越しに一言交わすなど高齢者の孤立がおきている。家族や親族がいても付き合いがない。身内で支えるよりも専門家に頼ればいい。高齢者虐待加害者の変化（90 年代初めは息子の嫁→現在は息子、次いで夫）など、金があるがゆえに縁が切れてしまう社会になってきている。

明治、大正生まれの親は子沢山で、経済的にも安定し、まだ子供が介護できた。しかし現在、要介護者世代はすでに「昭和生まれ世代」に移行しつつあり、配偶者に頼り、子どもには頼れない（子どもを犠牲にはできない）など「おひとりさまの老後」を予期する時代になり、「介護は社会の責任」という考えも一般化してきた。その背景には①単独世帯、夫婦世帯、親と未婚の子のみの世帯の増大、②少子化に伴う娘しかいない親の増大、③変化する老親扶養意識（年金制度の成熟、介護保険の開始に伴い高齢者の生活費・介護費用は高齢者自身の自己負担へ）など家族変化が。

これらの状況から介護問題の深まる危機が考えられ、一人ひとり生き方の変化が迫られる。困った時には助けてと言える力を（介護保険の活用など）、他人と生きていく力を今から付けていかなければと。

家族、地域、社会との関係、つながりをどのように組み替えていくか、また、つながる力のない人を組み入れて小さな社会を作っていかなければ。

日々取り組むことで政治を変える。「新しい部分を自分達で作っていけるプラスの力を」と話されました。

老後をどう迎えるか、その為の地域社会づくりは…、考えさせられる分科会でした。

○全体会　記念講演「エプロンはずして夢の山」　講師　田部井淳子さん

女性としてエベレスト世界初登頂を果たした田部井さんが、「女子だけで海外遠征を」組んだ理由から話されました。その頃は女性が海外遠征隊に入りたいと言っても誰も相手にしてくれなかった。仕方なく 1969 年に女子登攀クラブを設立した。

1970 年エベレスト登頂を決意し、登頂の申請から 1 年半経ち、1975 年なら…と許可が下りた。この間、仲間集めに。でも、ほとんどの人は行きたいけれど体力がない、金がない、暇がないなど自分から行かれない条件を挙げた。行きたいと思ったらなんでもできるのに。

「前向きに考えられる人は意志がある人」と考え、1 年かけて 18 人集めた。準備のために家を空ける時間も多くなり夫の協力が必要になった。

よく「田部井さんのご主人は理解がある人ですね」と言われますが、とんでもない、私が我慢したんですと。子どもを見てもらっているのだからと、遅く帰ってきても食事の支度は自分でやった。食器を片付け、夕ご飯の準備、だからでき上がった頃はお腹がぺこぺこ。そんな日が続いた頃、夫が気づいた。食器を洗っておけばそれだけ早く食事ができる。そのうち米を研いでおくともっと早く食事が…。どうせ米を研ぐのなら炊いておいた方が…。

言葉で指摘するのではなく、見せることで夫を教育した。目に見えない努力が夫を変えたと笑いながらおっしゃりました。

女性で世界初の 7 大陸最高峰を登頂、72 歳の今も密度を濃く生きていたいと、年間 100 日は海外に出かけ各国の最高峰を登っています。また福島で被災された皆さんと一緒に山歩きをされています。暗い顔の皆さんが、山の美しさ、自然のやさしさに触れ、見る見る顔がほころび明るくなっていく姿をみて、自分ができることを続けようと思ったそうです。

できない理由を探すのではなく、意思があったらなんでもできる、そう言って行動する田部井さんの世界観、人生観に圧倒されました。元気と勇気をいただきました。

○「日本女性会議 2012」は仙台市で開催

参加者 2,200 人が集った日本女性会議 2011 松江大会は、沖縄から北海道までの参加者を縁で結び、次の開催地仙台へ引き継がれます。

仙台市長は「この震災で、女性はまだまだ声を上げにくいことが明らかになりました。震災からの復興に向けた女性の参画とエンパワメント、これが日本女性会議 2012 のコンセプトです」と。

『きめる　うごく　東北から』2012 仙台で開催します。市民意識が変わることで社会を変える力も責任もある、再認識させられた日本女性会議でした。